

アスンシオン市公式訪問報告書



パラグアイハープ「アルパ」演奏風景

平成31年4月20日（土）～26日（金）

千葉市

総務局市長公室国際交流課

1 訪問目的・概要

(1) 訪問目的

今年度は、パラグアイ共和国・アスンシオン市と姉妹都市提携50周年を迎える。これを契機に、これまで文化やスポーツ等の様々な分野で培ってきた友好親善を一層深めるとともに、さらなる交流促進を目指すため、アスンシオン市を公式訪問した。

千葉市長の訪問は、平成7（1995）年4月以来、24年ぶりの訪問となる。滞在中には、マリオ・フェレイロ市長及びオスカー・ロドリゲス市議会議長と友好関係確認書への署名を行い、50年間積み重ねてきた友好関係を両市互いに確認するとともに、市長が訪問する公式訪問として、アスンシオン市との信頼関係をさらに強固なものとし、今後も両市の発展的な関係を築いていく礎とする。

(2) パラグアイ共和国・アスンシオン市の概要

<人口> 約52万人

<面積> 約117km²

<市長> マリオ・フェレイロ市長

<概要>

アスンシオン市は、緑豊かなスペイン風の古都で、人口約52万人を擁する南米パラグアイ共和国の首都。政治はもとより経済、文化の中心である。市街地は古い寺院や劇場等のある旧市街地と、食品、繊維工業等が立地する新市街地に分かれている。

<姉妹都市提携日>

昭和45（1970）年1月1日

<アスンシオン市の位置>



在日本パラグアイ大使館HPより

2 訪問行程等

平成31年4月20日（土）から26日（金）まで（7日間）

月日	発着・滞在地	訪問地等	宿泊地
4/20 (土)	羽田空港 発		機内泊
4/21 (日)	アスンシオン空港 着	動植物園視察 在パラグアイ日本国大使館訪問 アスンシオン市内視察 アスンシオン市中央卸売市場 大統領府 前駐日パラグアイ大使との懇談	アスンシオン市
4/22 (月)	アスンシオン市	アスンシオン市長・議長表敬訪問 友好関係確認書署名 JICAパラグアイ事務所訪問 パラグアイ工業連盟訪問 千葉市プレゼンテーション パラグアイ外務省訪問 ラ・オリャ サッカースタジアム視察 パラグアイ日本・人造りセンター視察 (アスンシオン市主催歓迎レセプション)	アスンシオン市
4/23 (火)	アスンシオン市 他 イグアス市	アスティジェロ・ツネイシ・パラグアイ視察 御影城（前原城）視察 パラグアイ オリンピック委員会訪問 イグアス市長・日系社会関係者との懇談	エステ市
4/24 (水)	エステ市 他 フォス・ド・イグアス空港 発	イグアス・3国国境地帯観光戦略視察 (イタイプーダム・イグアス国立公園)	機内泊
4/25 (木)	機内	移動	機内泊
4/26 (金)	羽田空港 着		

3 公式訪問団 5名

熊谷 俊人 市長、小松崎 文嘉 議長 ほかに3名

4 訪問の概略

《1日目》 4月20日（土）

羽田空港から空路アスンシオンへ。羽田空港にて、ラウル・フロレンティン=アントラ在日パラグアイ共和国特命全権大使の見送りを受けた。

《2日目》 4月21日（日）

アスンシオン市到着。空港にて、石田 直裕在日パラグアイ共和国日本国特命全権大使の出迎えを受け、アスンシオン市内視察に向かった。



フロレンティン特命全権大使（左から2番目）



石田特命全権大使（左）

■ 動植物園

同園内には姉妹都市提携30周年を記念して、平成14（2002）年3月に千葉市から寄贈した古代雪見灯籠が設置されている。灯籠の下の石碑には、日本語及びスペイン語でこの灯籠が友情のしるしとして千葉市からアスンシオン市に送られたことが刻まれている。

動物園では70種程度の在来種を中心にした動物を飼育しており、週末は家族連れで賑わっている。



千葉市寄贈の古代雪見灯籠

■ 在パラグアイ日本国大使館

石田 直裕駐パラグアイ日本国特命全権大使からパラグアイ情勢についてブリーフィングを受けた。

パラグアイの人口は約705万人、面積は40万6,752km²。過去5年間の平均経済成長率は4.3%であり、34歳未満の若年層人口は73.7%とラテンアメリカで最も多い若年層人口を有している。なお、周辺国と比較しても比較的治安が良い国であることなどの説明を受けた。

また、平成31（2019）年にパラグアイが日本との外交樹立100周年を迎えたことに触れ、両国間の関係においては、日系社会の存在が大きな意味を持っていると述べられた。特に農業分野におけるパラグアイ発展への貢献はパラグアイ国民にも高く評価されているが、現在では経済分野においても日系人の活躍が見られることについても言及があった。

■ アスンシオン市中央市場

アスンシオン市中央市場は11ヘクタールの敷地を有する国内最大の市場である。過去には同市場の職員研修を千葉市中央卸売市場で受け入れたことがあることから、千葉市とも関係の深い市場である。

実際の店舗や改築中の現場を視察し、現在では、在庫管理のための情報システム導入が課題になっているなどの点について説明を受けた。

■ 大統領府

19世紀後半に当時のフランシスコ・ソラノ・ロペス大統領により建設された、パラグアイ川からほど近い場所にそびえる宮殿。パリのルーブル博物館を模して作られたと言われている。内部の装飾も美しく、歴史上の英雄の像や肖像画も飾られている。



アスンシオン市中央卸売市場



大統領府

■ トヨタシ前駐日パラグアイ大使との懇談

トヨタシ ナオユキ前駐日パラグアイ共和国特命全権大使邸宅にて歓迎夕食会が開催され、アスンシオン市マリオ・フェレイロ市長、石田 直裕日本国大使、パラグアイ オリンピック委員会カミロ・ペレス・ロペス・モレイラ委員長など各界の方々と親交を深めた。また、ジェフユナイテッド市原・千葉に所属していたエドアルド・アランダ選手、ホアキン・ラリベイ選手とも懇談した。

民族楽器アルパ（パラグアイのハープ）演奏のほか、民族舞踊も披露された。



左からトヨタシ前大使、熊谷市長、フェレイロ市長、ペレス委員長



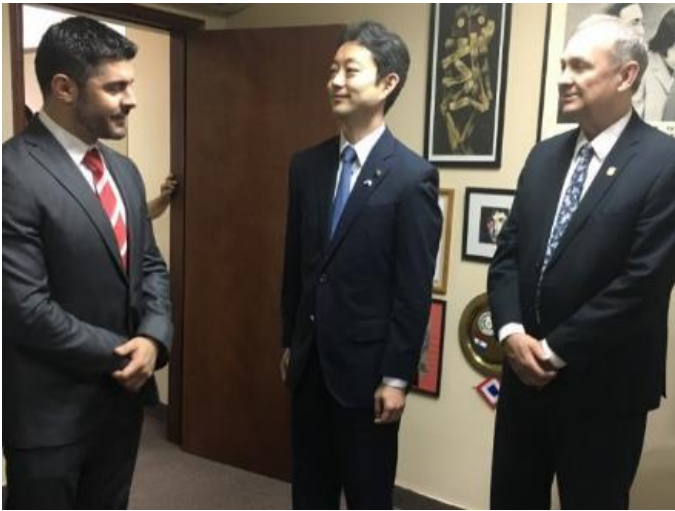
アランダ選手（左）、ラリベイ選手（右）

■ アスンシオン市長・議長表敬訪問

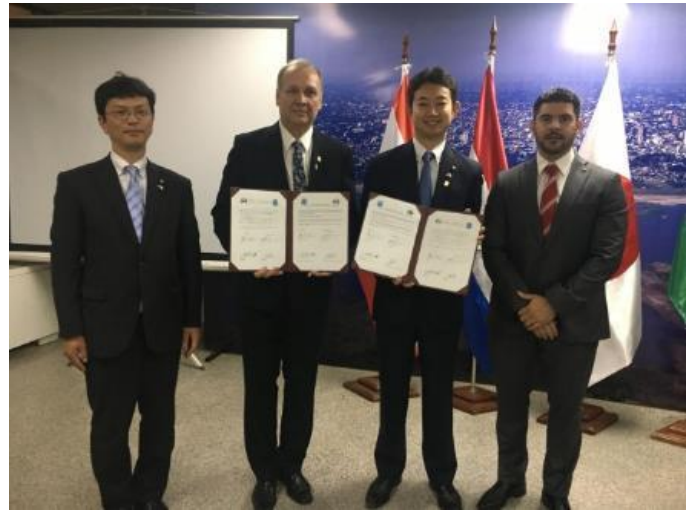
姉妹都市提携50周年という記念すべき大きな節目を迎えるにあたり、これまで培われてきた友好関係を礎として、さらなる交流の発展に努めることを両市長が確認し、「友好関係確認書」に署名を行った。また、アスンシオン市から熊谷市長に名誉市民証が、アスンシオン市議会から熊谷市長及び小松崎議長に名誉訪問者証が贈られた。

熊谷市長からは、千葉市はアルパ、サッカー等を通じてパラグアイを大変身近に感じている都市だということ、この度の「友好関係確認書」への署名により、両市の関係がさらに深まり、両市民の交流を通して千葉市民にはアスンシオン市を、アスンシオン市民には千葉市をより身近に感じてほしいということ、また来年は東京オリンピック・パラリンピックの7競技が千葉市で開催されるので、ぜひ観戦に訪れてほしい旨が述べられた。

マリオ・フェレイロ市長は、千葉市は大変発展している都市であり、アスンシオン市も見習うべきことが多いと述べたうえで、両市間の大切な関係を更に強化できる機会を持ったことを名誉に思うとのこと、また、日本のこれまでの発展は、人々の努力の賜物であり、日本人から多くのことを学びたいと述べた。



ロドリゲス議長（左）、フェレイロ市長（右）



友好関係確認書署名



アスンシオン市議会



日本国千葉市・パラグアイ共和国アスンシオン市
姉妹都市提携50周年に係る友好関係確認書



1970年1月1日、日本国千葉市とパラグアイ共和国アスンシオン市は、
国境や人種、文化の違いを超えて、友情と信頼に基づき国際親善を推進し、
国際社会の平和と繁栄への貢献を目的として姉妹都市関係を提携した。

その間、両市及び両市の市民は、文化やスポーツなどの様々な分野において
交流し、友好関係を育んできた。

この度、姉妹都市提携50周年という記念すべき大きな節目を迎えるにあたり、
両市は、深い理解と友情のうえに立ち、友好関係を一層深め、これまで
培われてきた成果を礎として、さらなる交流の発展を目指すとともに、
日本国・パラグアイ共和国両国の親善の促進に努めるものとする。

2019年4月22日にアスンシオン市において、日本語とスペイン語に
より署名された確認書は、両版とも等しく正文である。

千葉市

熊谷 俊人
市長

アスンシオン市

マリオ・フェレイロ
市長

立会人

小松崎 文嘉
市議会議員

オスカー・ロドリゲス
市議会議員

■ JICA（独立行政法人 国際協力機構）パラグアイ事務所

米崎 紀夫 JICAパラグアイ事務所所長からパラグアイにおける事業展開についてブリーフィングを受けた。

パラグアイへの JICA ボランティア派遣は昭和 53（1978）年に始まり、延べ 1,700 人を超えるボランティアを派遣している。ボランティアの累計派遣数ではアフリカのマラウイに次いでパラグアイが世界で 2 番目に多い。平成 31（2019）年 4 月 1 日時点ではパラグアイ国内で活動するボランティアは 52 名に上る。

また、パラグアイには昭和 11（1936）年から日本人の入植が始まり、約 10,000 人の日系人が生活しているということなどについて説明を受けた。

その後、公式訪問団はパラグアイで活動中の JICA 海外協力隊ボランティア 5 名と意見交換し、熊谷市長からボランティアに対して激励を行った。（うち 1 名は千葉市中央区出身者）



JICA海外協力隊ボランティアの皆さん

■ パラグアイ工業連盟

パラグアイ工業連盟において、パラグアイの経済関係者に対して千葉市の特性や魅力、国家戦略特区や東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた取組みに関するプレゼンテーションを行った。



プレゼンテーションの様子

■ パラグアイ外務省

熊谷市長から、日本国内で現在、姉妹都市としてパラグアイと交流している都市は千葉市のみであり、アルパやサッカー等の様々な面で交流をしていることが紹介された。

ウゴ・サギエル・カバジェロ筆頭外務副大臣（当日は外務大臣が海外出張中であつたため臨時外務大臣）からは、パラグアイにおいて日系人の方々が日本とパラグアイとの2つの国民性や文化を融合させて活躍していることや、日本の皇族の訪問によりパラグアイが重視されていることが感じられる旨が述べられた。



カバジェロ外務副大臣との懇談



■ ラ・オリャ サッカースタジアム

アスンシオン市を本拠地とするサッカーチーム「セロ・ポルターニョ」のホームスタジアム。スタジアム内を見学しながら、その運営や今後の交流についてチーム関係者と意見交換を行った。

「セロ・ポルターニョ」はパラグアイのサッカー1部リーグ「リーガ・パラグアージャ」に参加する12クラブのうちの1クラブ。2018年シーズンまでジェフユナイテッド市原・千葉に在籍していたホアキン・ラリベイ選手や、2010年のサッカーワールドカップ・日本-パラグアイ戦の際にPKを失敗した駒野選手を慰めたネルソン・アエド・バルデス選手も所属している。



バルデス選手（右から2人目）

■ パラグアイ日本・人造りセンター

日本政府の無償資金協力により昭和63（1988）年に設立された施設。パラグアイでも有数の劇場をはじめ、和室、図書館、体育館や各種講習室を備えており、様々な用途で広く利用されている。体育館では、JICA青年海外協力隊として体操競技の技術指導を行っている隊員の活動を視察した。なお、今回の訪問において、同施設はアスンシオン市主催歓迎レセプションの会場にも用いられた。

また、施設入口には姉妹都市提携20周年を記念して平成元（1989）年に千葉市から寄贈した春日灯籠が設置されている。



センター外観と灯籠



センター内体育館

《4日目》 4月23日（火）

■ アスティジェロ・ツネイシ・パラグアイ（日系企業）

同社は広島県福山市に本社を置く常石造船株式会社の子会社である。常石グループ2代目社長が広島県沼津郡沼津町（現・福山市）の町長として、かつてパラグアイに移民を送った歴史があることから、福山市は現在でもパラグアイとのつながりが深い市である。

パラグアイでは、従来トラックによる陸上輸送で農産物を輸送していたが、より低コストな河川輸送の重要性が高まっているため、同社はその需要に応えるべく、造船事業や河川輸送事業等を展開している。訪問団は、同社の造船事業や地域貢献事業等について説明を受けた後、造船所内を見学した。



■ 御影城（前原城）

前パラグアイ日本人会連合会会長 前原 弘道氏が所有する農場の敷地内に建設した城。

築城のきっかけは、前原弘道氏の父、前原深氏が日本文化の象徴である城をパラグアイに建てることで移住者である日本人の努力を伝えたいと望んでいたことによる。深氏の没後、弘道氏が父の夢をかなえたいと日本から宮大工を呼び寄せたり、瓦を取り寄せたりするなどして、着工から10年の歳月をかけて築き上げた。

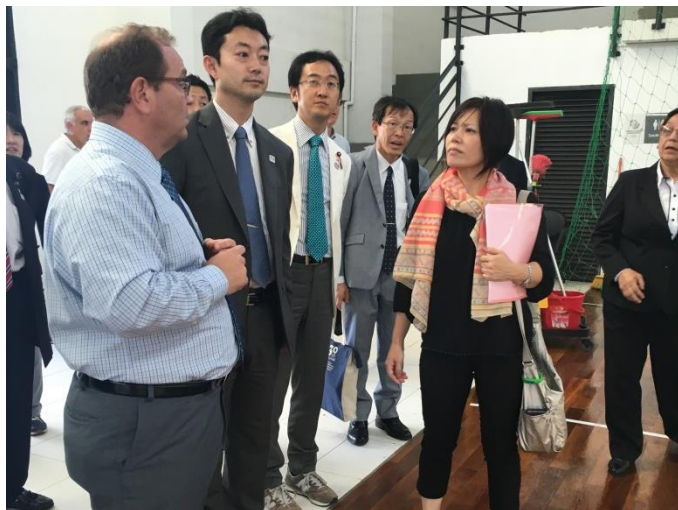


城下に広がる農場

■パラグアイ オリンピック委員会

パラグアイ オリンピック委員会のカミロ・ペレス・ロペス・モレイラ会長から、10種目のトレーニングができる委員会敷地内施設の案内を受けた。また、サッカーでは2004年アテネ大会で銀メダルの獲得実績があることや、オリンピックはワールドカップより出場枠数が少ないものの、強豪を破って東京オリンピックに行きたい旨などがペレス委員長から述べられた。

また、パラグアイにおけるパラスポーツの現状は、パラリンピック委員会が機能し始めてまだ1年数か月であることや、現在はスポーツ庁からの援助を受けているものの車いすの専用器具等の整備がまだできておらず、今後整備が必要である点についてパラグアイ パラリンピック委員会イヒニア・ジオサ会長から説明を受けた。



■ イグアス市長・日系社会関係者との懇談

現在、パラグアイ唯一の日系市長である河野 マウロ イグアス市長からの招待により訪問し、熊谷市長は名誉訪問者証の授与を受けた。イグアス市内には、昭和36（1961）年から入植が開始された日系移住地があり、市の総人口約12,700人に対して、約200家族の日系人・日本人が居住している。

イグアス市の主たる産業は大豆、トウモロコシ等の大規模農業及び畜産である。イグアス農業協同組合では製粉工場も経営しており、年間約20,000トンの小麦粉を生産している。



イグアス市から名誉訪問者証授与

《5日目》 4月24日（水）

■ イグアス・3国国境地帯観光戦略視察

イグアス市では近年、イグアス国立公園へ向かう観光客の誘客を狙った観光業構築にも力を入れており、伝統民族の保護や日本の例に倣った「道の駅」等の取組みを進めている。イグアス日本人会所有のピクポ公園内にある政府観光局により建設された「イグアス湖畔観光案内所」や、森を歩きながら先住民族であるグアラニー族の文化を学べる「グアラニー族体験回路」を拠点として、今後の観光振興による地域活性化を目指している。

ブラジルとの国境に位置するイタイプダムは、パラグアイとブラジルとの共同プロジェクトとして昭和50（1975）年に着工、平成3（1991）年に竣工した世界最大級のダム。20基のタービンがあり、パラグアイとブラジルで電力の使用権利を50%ずつ持つ。なお、パラグアイ国内の電力は1基の半分で十分まかなえるため、残りの電力はブラジルに輸出されている。

イグアス国立公園はパラグアイ・ブラジル・アルゼンチンに渡り流れるパラナ川支流のイグアス川にある滝とその周辺地域を含む国立公園で、ユネスコの世界遺産にも登録されている。パラグアイの先住民族グアラニー族の言葉でイグアスの「イ」は「水」を、「グアス」は「大きい」の意。



イタイプダム

以上の行程後、夕方に空路にて帰国の途に就いた。



パラグアイレース「ニャンドウティ」



千葉市・アスンシオン市

姉妹都市提携50周年記念

